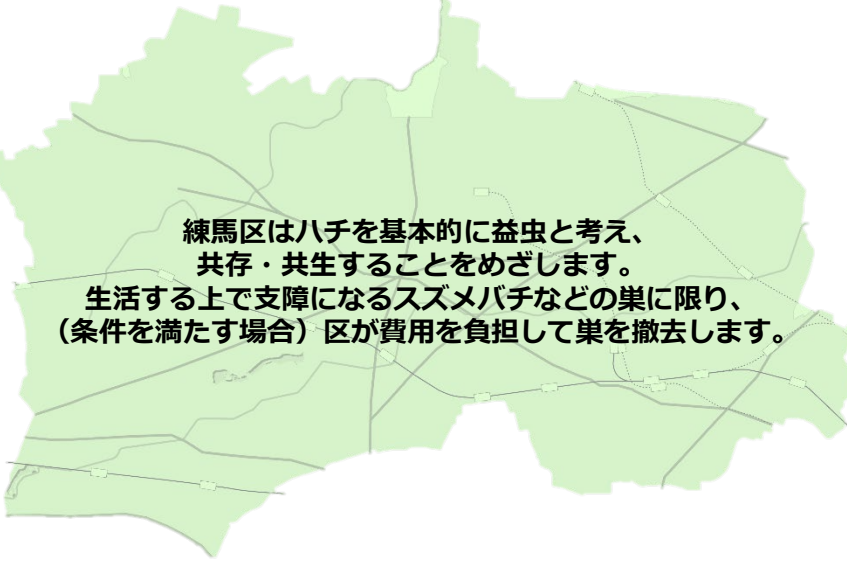


ハチの性別

ハチの針は産卵管が進化して武器となったもので、メスのみがこれを持っています。すなわち、刺すことができるのはメスだけです。ハチの巣の中にはメスによく似たオスもいますが、武器を持たず、刺すことができません。飛んでいる姿だけで性別を判断することは困難です。近寄り過ぎないようにしましょう。



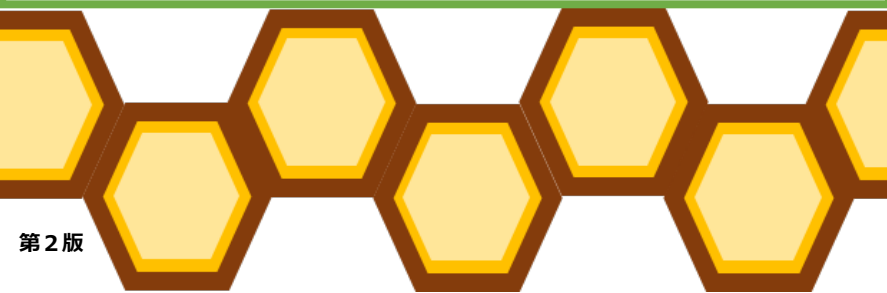
練馬区はハチを基本的に益虫と考え、共存・共生することをめざします。生活する上で支障になるスズメバチなどの巣に限り、(条件を満たす場合)区が費用を負担して巣を撤去します。



写真提供：ねりま観光センター

ハチとの「共存・共生」

ハチは、植物を受粉し害虫を捕食する益虫の側面を持ち、ハチがいないと農業や生態系へ影響を与えることが考えられます。近年、開発や都市化に伴い森林や田畑が減少したことで、ヒトの生活圏に進出したハチとヒトが接触する機会が増えています。都市の生活では昆虫と触れ合う機会が少ないため、ハチは恐ろしいものであるといった見方が先行し、対処法が分からないまま、巣の撤去一辺倒になりがちです。そこで、ハチの生態について正しい知識を得て、ハチとの共存・共生について考えてみましょう。



アシナガバチの巣の撤去

スズメバチに比べて攻撃性の低いアシナガバチの巣であれば自分で撤去することも可能です。その場合は、下記の要領で作業を進めてください。

着用するもの

- 帽子
- めがね
- 長袖
- 長ズボン
- 手袋 など

皮膚の露出を避けましょう

用意するもの

- 殺虫スプレー (2本以上)

服は白系統のものを選びましょう



- 手順**
- ハチは暗いところでは視力が働かないため、巣の撤去作業は夜間に行う
 - できるだけ複数人で作業を開始する
 - 巣に向かって、ハチが動かなくなるまで殺虫スプレーを吹きつける



ハチは光に向かうため、作業中には極力懐中電灯を用いないやむをえず懐中電灯を用いる場合は、作業者の位置とは別の角度から照らす

- 翌日、巣を撤去する
- 巣やハチの死骸は、直接触らずに割り箸などで扱い、可燃ごみとして処分する



写真提供：ねりま観光センター



スズメバチの巣を見つけたら

巣には近寄らず、すぐにその場から離れましょう。巣の撤去は専門の業者に依頼するなどし、巣を触ったり、ハチや巣に向かって石を投げたりしないでください。

監修・写真提供
東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構
山崎和久 博士 (農学)

練馬区保健所生活衛生課 環境衛生監視担当係
東京都練馬区豊玉北6-12-1
練馬区役所 東庁舎6階
電話：03-5984-2485

ミツバチ

日本にはニホンミツバチとセイヨウミツバチが分布しており、練馬区にも、この2種類が生息しています。



巣は働きバチが分泌する蜜ろうからできており、断面が六角形をした個部屋（巣房）が連なった複数枚の板状の巣盤から成ります。巣の中では常時数千から数万個体のハチが生活しています。

ミツバチの分蜂

春から初夏にかけて、庭木や軒先などに、膨大な個体数のミツバチが密集した群れを作ることがあります。これは分蜂という性質で、ミツバチの繁殖期に見られる巣別れです。ミツバチ類は分蜂の時期になると、母の旧女王バチがそれまで生活していた巣を娘の新女王バチに譲り、巣内の約半数の働きバチを連れて新天地へ旅立つ性質を持ちます。分蜂群が樹や建物のか所にかたまり一時的に留まっている間に、一部の働きバチたちが新しい営巣に適した環境を探し、適当な場所が見つかるまで群れで飛び去ります。一度にたくさんのハチを見るとあわててしまいがちですが、分蜂群に攻撃性はほとんど無く、ヒトを襲うことはありません。また、分蜂群の滞在期間は長くとも数日以内で、新天地に移動したあとは完全にいなくなるため、長期間悩まされることはほとんどありません。しばらく様子を見るか、どうしても気になる場合は養蜂家に相談してみるのも一案です。

アシナガバチ



飛行時に、だらりと下げる後脚が長く見えることが名前の由来です。日本に8種類、本州に6種類が分布しており、練馬区ではセグロアシナガバチとフタモンアシナガバチが最もよく見られます。風通しの良い明るい環境を好んで営巣することから、住宅地でも多く見られます。

巣はハチが噛み砕いた植物の繊維からできており、和紙のような質感です。巣形は伏せた茶碗のようで、巣房が集まってできています。種による違いはありますが、最盛期の巣の中では数十から数百個体のハチが生活しています。



アシナガバチの1年



越冬した女王バチは、創設女王バチとして単独で巣を作りはじめます。最初の働きバチが羽化するまで、女王バチは巣作りや産卵、幼虫への餌やりなどのすべてを単独で行います。

初夏以降は、次々に働きバチが羽化します。働きバチはすべてメスで、巣の防衛やエサの捕獲などの労働を担います。盛夏から晩夏にかけては、翌年の女王となる「新女王バチ」や、別の巣の新女王バチの交尾相手となるオスバチが羽化します。巣にいるハチの個体数が最大になる一方で、創設女王バチは寿命を迎えます。



成虫の数がピークを迎えます。新女王バチとオスバチが出揃う一方、働きバチは10月頃までに死に絶えます。交尾を終えた新女王バチは、離巣して越冬場所へ移動しますが、元々攻撃性が少なく、寒くなると動かなくなります。また、オスバチなど一部の個体は晩秋でも巣に残ることがありますが、越冬できず、死んでしまいます。

新女王バチは活動を休止します。この年に使われた巣は再利用されることはありません。※ミツバチに限り、同じ巣を数年にわたり使用します。



スズメバチ

ミツバチやアシナガバチに比べ、一般的に高い攻撃性を持ちます。日本には外来種1種を含む8種、本州には6種が分布し、練馬区ではコガタスズメバチとキイロスズメバチが最もよく見られます。



危険

巣は成虫が噛み砕いて薄く延ばした木材でできており、巣材となる木の種類によって茶色や白色の混ざった模様になることが普通です。アシナガバチとスズメバチは比較的近縁で、形態や生態には似ている点も多いですが、スズメバチの巣には外被があり、内部の巣盤の大部分ないしすべてが包まれていることが大きな特徴です。外被には出入り口が1〜数カ所あり、内部には複数枚の巣盤があります。コガタスズメバチの巣は、初期はとっくり形で、大きくなると球形になります。種による違いはありますが、最盛期の巣の中では数百から千を超える個体数のハチが生活しています。

スズメバチの聴覚

スズメバチは、聴覚に特化した器官を持ちませんが、物や空気を伝える振動を感じ取ることができます。ヒトが発した声程度の振動には反応しません。おもに視覚や嗅覚などによってヒトの接近を感じ取ります。巣が、生活環境から離れていて、直接的な振動を与える可能性の低い環境にあるならば、見守ることも一案です。

ハチの攻撃性

アシナガバチ

比較的穏やかで、個体を素手で触ったり、巣を刺激したりしない限りは襲ってこないことが普通です。

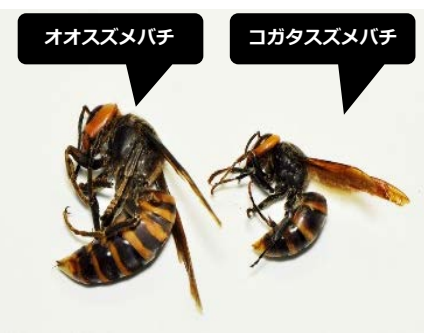
スズメバチ

個体を素手で触ったり、巣を刺激したりしない限りは襲ってこないほど穏やかなヒメスズメバチから、巣から数メートル以内の距離に近付いただけで襲ってくる最も危険なオオスズメバチまで、攻撃性は種によって様々です。練馬区で多く見られるコガタスズメバチとキイロスズメバチは、いずれも中程度からやや高い攻撃性を持ち、巣が発達する夏から秋にかけて攻撃性が最も高くなります。

アシナガバチ



オオスズメバチ



コガタスズメバチ

ハチは常にヒトを無差別に攻撃するわけではありません。彼らの攻撃は、自身の体や巣を防衛するためのものです。ハチは活動範囲が広く、アシナガバチならば巣から数百メートル、スズメバチならば巣から1〜数千メートル離れた場所で飛び回っていることも少なくありません。庭先や公園などで単独で活動しているハチを見かけたのであれば、害は無いのでそっとしておいて問題ありません。なお、樹液が出る樹などの餌場を縄張りとし、そこに近付く者に対しても攻撃的に振る舞うオオスズメバチの例外を除きます。

刺傷事故

ハチは巣に伝わる振動に敏感です。ヒトがハチの巣を直接触ったり、巣がついている木の枝や人工物を揺らすことで振動が巣に伝わってしまうと、それが刺激となり、巣から飛び出したハチがヒトを襲います。実際に多い事故は、外部からは目視できない場所にハチが営巣し、それに気付かないままヒトが振動を与えて巣を刺激した結果、ハチに襲われるというものです。

もしハチに刺されたら

ハチに刺されても落ち着いて行動しましょう。

- ① 容態が急変してショック状態に陥る可能性を考慮し、その日は誰かに様子を見てもらいましょう。血圧低下などの症状は倒れるまで自覚が無い場合が少なくありません。
- ② ハチに刺された針が残っている場合は、根元から毛抜きなどで抜くようにしましょう。
- ③ 刺された部位の周辺を強くつまみ、毒を押し出します。
- ④ 水でよく洗い、冷やします。
- ⑤ 早めに医療機関を受診しましょう。

巣への対策

樹木の剪定

夏には、すでにスズメバチが巣を作っている可能性があります。できれば、剪定は春までに終わらせましょう。



通気口の被覆

ハチが通り抜けられない細かい網目のネットやシートを用いて、屋根裏や床下への通気口を覆いましょう。

前年の営巣場所を注意

前年までに巣が見られた場所は、ハチの営巣に適していることが多く、再び巣を作られる可能性があります。ハチの営巣が始まる春には注意を向けましょう。巣が小さいうちであれば、比較的簡単に対処できます。

巣に対する注意



ハチの巣に気付くことができたならば、振動を与えないように落ち着いてその場を離れましょう。また、生い茂った植物や人工物の中の見えない場所に巣がある可能性を考慮して、そういった場所にはむやみに近付かないことが大切です。1つの場所を一定時間観察してみて、同じ場所に複数のハチ(例えば、目安として5個体以上)が飛び交い、茂みや人工物から出入りしているようであれば、巣があるかもしれません。

万が一、巣を刺激してしまった場合は、興奮状態になったハチが巣から次々に飛び出し、巣から数メートル以内の範囲にいるヒトを無差別に襲います。この時のハチは、非常に素早く対象に向かって直線的に飛びます。ヒトがその場に留まったまま被害を回避することは困難なため、速やかにその場を離れて下さい。

